

Hokkaido University Institute for the Advancement of Higher Education

# ニュースレター



北海道大学 高等教育推進機構 Newsletter No. 102

- アカデミック・サポートセンター2014年度活動報告,  
およびラーニングサポート室の活動について (3ページ)
- 平成26年度「北海道大学TF研修会」を開催  
—143名が参加— (11ページ)
- 平成26年度 高大連携授業聴講型公開講座  
修了式を開催 (15ページ)
- 第1回北海道大学スポーツトレーニングセンター  
シンポジウムを開催 (17ページ)
- (詳しい目次は裏表紙にあります)

## 巻頭言 FOREWORD

### 大学院特別教育プログラム「新渡戸スクール」について

新渡戸スクール 教頭 地球環境科学研究院 教授 山中 康裕

#### 背景

北海道大学は、創基150周年に向けて制定した「北海道大学近未来戦略150」において、「専門的知識に裏付けられた総合的判断力と高い見識、ならびに異文化理解能力と国際的コミュニケーション力を有し、国際社会の発展に寄与する指導的・中核的な人材を育成する」ことを教育の基本目標として定めています。今年5月、この目標を達成するために、大学院生に向けた「NITOB E教育システム」として、学部生に向けた「新渡戸カレッジ」にひき続き、「新

渡戸スクール」を開校します。

札幌農学校が創設された1876年に、米国ジョージ・ホプキンス大学が創設され、研究大学の雛形となったことが、世界における大学院の始まりとされています。それ以来、大学院では、学生が、研究を進めるなかで、高度な専門性を身に付ける教育を行ってきました。しかし

ながら、社会的要請として、「グローバル化」に象徴される社会の急激な変化に対応した人材の育成が、大学院にも求められるようになりました。

### 育成する人材像と「3+1の力」

新渡戸スクールは、「多様な社会的・文化的背景を有する人々と協働して、グローバル社会のなかで生じるさまざまな問題を予測や発見、解決して、新たな社会的価値の創造に貢献する、高度な専門性とフロンティア精神をもった専門家」となるための環境を提供します。このような専門家に求められるものとして、

- (1) 能力更新力：自分自身の将来像や解決したい問題を定め、自己の能力やそれを取り巻く現状を適切に認識し、定めた目標・問題に向かって挑戦、軌道修正しながら自分自身を成長させ続けること。
- (2) 組織形成力：ひとりひとは専門家として自立しながら、チームとして最終的な到達点を共有し、資源を有効に獲得・配置して相違や対立を回避・調整、互いを信頼して成果を最大にするように協調し、共に働くこと。チームとして機能する最適な状態を保ち続けること。
- (3) 社会還元力：社会の利益や幸福を最大化するため、ニーズ認識に基づいた提案・実行を担う役割を果たすことで、専門家として社会に能力を還元すること。
- (+1) 専門職倫理：高度な教育を受けた専門家として、自己の利益のみにこだわらず、広く社会全体の利益や影響も考え、公正・公平な判断を下し、その決断に責任を持つこと。

という「3+1の力」を授けます。

### 国際社会の縮図とチーム学習

新渡戸スクールでは、「国際社会の縮図」と呼ぶ、異なった国籍・文化を出自として異なる言語を使用し、さらに多様な専門性を背景とした大学院生が参加する環境を創り出します。例えば、学生が、多様な学生とのチーム学習を通じて、自分の組織形成力を高めるとともに、能力更新力として、自分の専門性を再認識し、自分の能力をどのように高めるかを考えていきます。「良いものを作れば売れる時代から、価値観を含めて良いものをしっかりと伝える時代」と産業界で言われているように、学位取得者も、

自分の専門性を認識し、伝えていかなければなりません。また、グローバル課題から身近な課題までを取り扱うことで、社会的要請や多様な社会を理解し、能力更新力や社会還元力、その基盤にある専門職倫理も、自然な形で身につきます。

### NITOBEPポートフォリオとアドバイザー制

教育の質を保証や、学生の主体的な学びを推進する仕組みとして、NITOBEPポートフォリオ(NPF)、メンター制度、アドバイザー制度を導入しました。NPFは、新渡戸スクール科目の課題とレポート、教員の評価などの学習履歴や、各専攻でのコースワークやリサーチワークも記録する、学生の修学状況の可視化と情報共有ツールです。また、参加時や修了時に行うプレイスメントテストは、適性能力診断(社会人基礎力診断等)や外国語能力試験(TOFEL等)を受けることで、NPFを客観性の観点から補います。感覚ではなく、それらによるエビデンスに基づき、学生は、身に付けた自己能力を説明できるようになり、また、指導教員等は、学生に対する総合的な判断や適切な指導がよりできるようになります。

アドバイザーは、学生の専門に近い教員が務め、NPFに基づき、学生が専門性と「3+1の力」を俯瞰するためのアドバイスをします。また、メンターは、原則30歳代の本学大学院修了生(将来は新渡戸スクール同窓生)が務め、身近なロールモデルとして、学生のキャリア意識の醸成、視野の広がり、人的ネットワークの形成の手助けをします。

### 新渡戸スクール科目

基礎プログラムは、修士課程(専門職学位課程を含む)向けに作られましたが、博士後期課程(4年制博士課程を含む)の参加も歓迎します。主要4科目(スタートアップ科目・グローバル課題科目・課題解決型実践科目・問題発見型実践科目)は、各学期の火曜日5-6限および木曜日5-6限に各1クラス(学生30名)開講します。学生は主要4科目など計8単位を約1年掛けて履修します。

主要4科目では、学生6名程度がチームを作り、チーム活動の基礎から、グローバル課題のチーム学習、課題を解くのに必要な情報収集(学外の人々と協働した)問題分析まで、チーム活動を段階的に

高度化させます。科目毎に、科目全体を設計・実施する科目責任者のもと、授業担当教員や授業支援教員がクラス毎に担当し、専門的な解説する専門講師やテーマ担当教員が必要に応じて参加します。科目毎に、反転授業や、チーム学習（TBL/PBL）など、アクティブ・ラーニングの教授法が組み込まれています。少人数クラスの新渡戸サポート英語が用意されているのも学生にとって魅力のひとつです。なお、上級プログラムは、基礎プログラムで学んだ後期課程の学生向けに2017年度から開始します。

おわりに

新渡戸スクールでは、大学院生は、「3 + 1 の力」を身につけるなかで、各自の専門性を再認識して、

さらに能力を高めることとなります。今回ご紹介しませんでしたでしたが、教育の質を保証する仕組みや参加教員が交替していく仕組みも組み込まれています。それらにより、新渡戸スクールは、絶えず進化し、創基150周年には、新渡戸スクールが社会に開かれたゲートウェイの役割を担い、新渡戸スクールに参加した学生と同窓生が、専門分野を超え、社会と大学をつなぐネットワーク社会学術生態系“Socio-Academic Ecosystem”へと発展していることを期待しています。

新渡戸スクールが北大で愛される存在になるよう、新渡戸スクール関係者は努力していく所存ですが、各専攻の皆様との情報共有・連携が不可欠です。よろしく、ご協力をお願いいたします。

**高等教育推進機構** Institute for the Advancement of Higher Education

**アカデミック・サポートセンター2014年度活動報告、  
およびラーニングサポート室の活動について**

1) アカデミック・サポートセンター (ASC) 2014年度活動報告

ASCの業務内容は2011年の総合入試導入に伴う学修支援であり、大きく三つに分けられます。一つ目は修学設計支援です。総合入試に伴う進路選択相談や、時間割の設計などの具体的な履修計画に関する相談（以下、「進路選択・履修相談」）に対応します。また、各学部の研究キーワードを載せた「アカデミック・マップ」を作成しています。二つ目は学習支援です。学生からの勉強に関する質問に対応する「学習サポート」を大学院生チューター（TA）と共に行っています。また、学習・研究に関するスキルセミナー（「スタディ・スキルセミナー」「アカデミックスキルセミナー」）や理系基礎科目の演習ゼミ（「物理ゼミ」「数学ゼミ」）、留学生を囲む英会話クラス（「英語コミュニケーション」）などを企画・開催しています。三つ目はデータ分析です。総合入試に関する各種データの検証や学生アンケートの実施により、制度の改善に役立っています。2010年の設置以来、ASCの利用は右肩上がりが増加し、少しず

つですが活動の幅も広がってきました。

次に、2014年度の主な利用状況を報告します（表1：2014年度の利用状況）。

最も印象深かったのは、進路選択・履修相談と学習サポートの利用人数の増加です。表1にある通り、延べ利用者数はどちらも前年度比1.3倍前後の増加となりました。これは過年度の増加傾向をさらに加速させる数字です。特に、第一学期に限ると、進路

表1 2014年度の利用状況

支援内容	延べ利用者数* (2013年度実績)
進路・修学相談	739人 (536人)
学習サポート	3495人 (2798人)
スタディ・スキルセミナー	195人 (154人)
アカデミックスキルセミナー	123人 (55人)
物理ゼミ	191人 (215人)
数学ゼミ	107人 (----)
英語コミュニケーション	198人 (83人)

\* 3/5時点



写真1 学習サポートの様子 (2014年7月)

選択・履修相談の利用は延べ582人(4/1～9/23の延べ利用者数, 前年度比1.6倍), 学習サポートの利用は延べ1999人(同, 前年度比1.5倍)に上る盛況ぶりでした(写真1)。大学生になって初めて取り組むであろう, 時間割の設計と自然科学実験のレポートについての利用が多く見られました。

スタディ・スキルセミナーでは, レポートの書き方やプレゼンの方法についてのコツを伝えます。学習サポートと同じく実験レポートの書き方に需要があり, 特に実験レポートの書き方について重点的に開催しました。延べ利用者数は前年度比1.3倍になりました。アカデミックスキルセミナー(附属図書館との合同開催, スキルアップセミナーから改称)は学部学生・大学院生を対象とし, プレゼンや論文作成をテーマとします。企画内容を改善した結果, 延べ利用者数(ASC担当分)が前年度比2.3倍にまで伸びました。

物理ゼミでは, 全学教育科目物理学I・II履修者を対象に, 基礎事項・典型問題(“試金石”問題)の解説を行います。大学から物理の学習を始めた学生が主な参加者です。2014年度の延べ利用者数は前年度に比べやや減少しましたが, 2014年度夏に導入したパンフレットスタンド(ここから学生はセミナー資料を自由に取っていける)による資料配布が好調でした。セミナーよりもこのような自習を助ける資料の方に需要があるのでしょうか。

数学ゼミは, 2014年度から始まった新企画です(写真2)。線形代数学I・II, 微分積分学I・IIについて, 問題演習による基礎固めを行いました。講師は学習サポートのベテランチューターである和田幸さん(理学院数学専攻博士後期課程, TA)

と船川大樹さん(同)が担当しました。まだまだ試行段階ですが, 講師の頑張りによって盛況な回が何度もありました。講師の二人にとっても, 価値ある教育経験になったようです。

英語コミュニケーションでは, 留学生チューター(TA)を少人数(おおよそ5～8人)で囲み, 英会話の力を磨く場を提供します。安定して参加者が集まるようになり, 前年度に比べ大幅に参加者が増えました。英語を学べる上に, 専門分野も学年も違う様々な人と知り合える場になっています。12月にはマサチューセッツ大学アマス校図書館員のマキシン・シュミット氏を特別ゲストに迎え, 20人程の参加者が日米の図書館の違いや選挙・銃といった時事問題について話し合いました(附属図書館新渡戸カレッジWGとの共催)。

## 2) ラーニングサポート室(LSO)の活動について

2015年4月から, ASCの業務は高等教育推進機構高等教育研修センターラーニングサポート部門—通称ラーニングサポート室(LSO)に移行することとなりました。LSOはASCの業務を引き継ぎ, さらなる発展を目指していきます。

2015年度は特に, アカデミック・マップにおける研究キーワードと各研究室の対応関係の記載や, パンフレットスタンドからの資料配布による学習支援の強化, スタディスキルに関する冊子の作成に取り組んでいく予定です。

LSOでは思いを新たに学修支援に励んでいきますので, 皆様の変わらぬご協力を宜しくお願い致します。  
(浅賀 圭祐)



## 個々の顔が見えるサポートとして —北大ピア・サポート 2014年度の活動—

2009年9月に北大ピア・サポートが発足してから5年が経ちました。

北大ピア・サポートは、「学生による学生相談」、  
「peer=同じ立場の者による支援」組織として活動しています。情報教育館の2階の一室を「ピア・サポート室」として、大学が授業期間となる4月～8月初め、9月末～2月初めの間、平日は毎日正午から5限時の始まる16時半まで開室しています。開室時にはかならず2名のピア・サポーターが2交代でシフトを組み常駐しています。ピア・サポーターは、現在学部2年生から修士・博士課程の学生まで、10数名になります。もちろんピア・サポーターも学生ですので、それぞれ授業のないときに、合間を縫ってピア・サポート室に足を運んでいます。

来室者は、場所柄ゆえか、やはりその年の新入生・1年生が基本となっています。もちろん2年生に進級しても、友人たちと集まって談笑する学生さん方もいたり、あるいは大学にやってきた学外の方に道案内を頼まれたりと、様々な方々に利用されています。来室してくれる学生さんたちも、サポーターに相談をしたり、お昼ご飯を食べたり、友達と談笑したり、ときにはちょっと昼寝をしたりと、学生にとって、大きな「居場所」として定着してきたかと思っています。また、サポーターもひとつの「先輩」というかたちで特に1年生のみなさんとふれあうことができたかと思っています。

どのような相談が来ているかといえば、4月中は「〇〇教室はどこですか」「時間割をどう組み立てたらいいですか」といったようなものが多いですが、それを過ぎると「留学について考えている」「学部移行について悩んでいる」という学生さんがいらっしやいます。もちろんそれらの質問には、国際本部やアカデミック・サポートセンターのような専門の

組織がありますのでそちらに案内することもあります。実際に留学をしていたサポーターや学部移行を経験したサポーターが自分の経験を話していくということで一緒に悩みをわかちあう、という形で相談にお応えしております。

そのような過程の中で、相談者とサポーターという以上に先輩・後輩として気軽に話ができる関係性が生まれていくこともあります。非常に個人的な話になりますが、私の研究室は高等教育推進機構に隣接するS研究棟にありますので、構内や北部食堂など行動範囲が学部1年生と同様のところになります。そのようなピア・サポート室以外でも事務室前の廊下や食堂、購買などで呼び止められて会話をしたり、そこで大学のことや大学外のことを相談されたりということもありました。そこではこちらもピア・サポートの来室者というよりも、研究室やサークルなどの後輩の話すのと同様の一人の「後輩」として相談にのることになります。もちろんこれは公的な学生相談、サポートという点からは問題になる面もあるかもしれません。しかしながら、「学生による学生相談」としてのピア・サポート活動としては、ひとつのあり方として非常にうまくいっている部分でもあるかと思っています。

開設から5年が過ぎ、組織としてもひとつの区切りを迎えているかと思っています。組織のあり方や構成についても改めて考えなおしているところでもあります。今後とも北大生の学生生活が充実したものになるように、学生の立場だからできる活動をおこなっていきたいと思います。

(鎗水 孝太 北大ピア・サポート学生代表 国際  
広報メディア・観光学院 観光創造専攻博士後期  
課程2年)

# 全学教育 GENERAL EDUCATION & 総合教育 FIRST YEAR EDUCATION

## 学務委員会報告

### 学務委員会報告

平成26年12月24日(水),平成27年1月27日(火),  
2月23日(月),2月27日(金),3月19日(木)に  
それぞれ平成26年第4回,第5回,第6回,第7回,  
第8回の学務委員会が開催され,以下の議題が会議  
にかけられました。

### 平成26年度第4回学務委員会(持ち回り)

#### 議題1.

「学校教育法の改正に伴う教授会審議事項等への対  
応について」に対する意見について

学校教育法が改正され,総長が意志決定を行うに  
当たり教授会の意見を聴く事項の策定がなされてい  
ます。これらの事項として学務委員会としての関連  
事項は,「学生の除籍及び復籍に関すること」なら  
びに「学生の懲戒に関すること」についてです。学  
生に対する不利益処分については慎重な審議が必要  
であることから,これまで同様,学務委員会の議を  
経て,総長が意思決定するという扱いで良いという  
ことが決定されました。

### 平成26年度第5回学務委員会(持ち回り)

#### 議題1.

「平成27年度以降の学部・学科等移行における成績  
評価のポイント化」及び「平成27年度以降におけ  
る医学部医学科,歯学部,薬学部薬学科及び獣医  
学部の志望者にかかる振り分け定員境界同席次者  
の取り扱い」について

平成27年度入学者から高精度なGPAによる成績  
付けが始まります。これにより卓越した能力が評価  
される(A+は全体の5%程度,現在はおおよそ上  
位15%から20%程度までが「秀」で同点)ことなど,  
有効数字一桁の移行点を基礎とするこれまでの扱い  
よりも,より精度の高い移行ルールとなることが期  
待されます。一方では平成26年度以前の入学者との  
互換性が課題となっております。

平成26年度以前の入学者の移行点は以下のとおり

算出することになりました。

「秀」…4.08,「優」…3.5,「良」…2.85,「可」…  
2.15,「不可」…0

なお,平成27年度移行の開講された科目において  
は以下のような移行点となります。

「A+」…4.3,「A」…4.0,「A-」…3.7,「B+」  
…3.3,「B」…3.0,「B-」…2.7,「C+」…2.3,「C」  
…2.0,「D」「D-」「F」…0

移行点同点者に対して,まず留年生は下位として  
扱います。平成27年度入学者の移行点同点者の席次  
決定には「A+」の数の多い方を上位とし,それ  
でも同席次の場合は「A」の数,以下B+の数など  
として席次を決定していきます。ただし非常に可能  
性が低いながらも,最終的にこれらの手続きの後でも  
同席次となる場合が考えられます。同席次者が発生  
すると,通常の学科やコースでは予定の移行定員を  
超過しての移行とすることを基本としています。た  
だし,医学部医学科,歯学部,薬学部薬学科及び獣  
医学部では,医療資格者の定員管理が厳格であるた  
め移行定員を超過しての移行は認められません。そ  
のため,これらの学科で万が一同席次者が発生した  
場合には最終的に面接によって席次が決定するこ  
ととなりました。

### 平成26年度第6回学務委員会(持ち回り)

学務委員会における代理者の出席について審議さ  
れました。

### 平成26年度第7回学務委員会

議題が多岐にわたったので今回は皆様に最も関連  
するところだけ記述させていただきます。

### 全学教育総合科目「学問の世界」の廃止 について

全学教育科目「学問の世界」は,専門の学問を紹  
介する科目となっていました,課外の学科紹介等  
で専門について学ぶ機会があり,当初の役割を終え

たと判断されることから平成27年度から「学問の世界」は廃止することになりました。

### 出欠管理システムの運用の変更について

出欠確認システムは、現在長期欠席者を把握する目的で主に使用されてきました。ただし、授業前にかざして去って行くかざし逃げ(タッチアンドゴー)が防止できないことから、授業の出欠管理としての使用には不十分な状態でした。平成27年度から学生は、入室時と退室時の2回かざすこととなります。このため平成27年度からこのシステムを授業の出欠管理として使用ができることとなります。また教員は必ずしもカードをかざす必要はありませんが、休講の場合はかならず休講情報システムに登録するか(ウェブの教務情報システムの11番「出欠状況」で休講の登録ができます)、教育推進課に連絡をお願いします。

### 平成27年度1年次学生の既修得単位認定

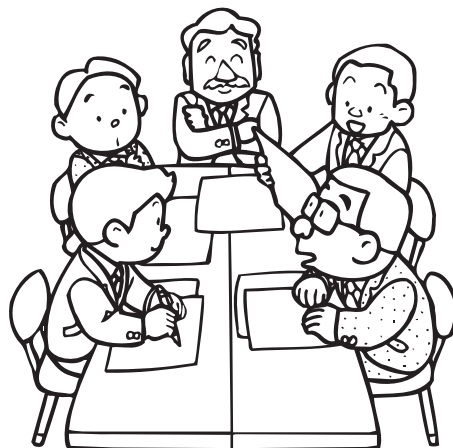
他大学で修得した成績を本学の成績と振り替える作業は非常に困難でした。平成27年度から新GPA制度に移行することに伴い、入学前に他大学で修得した成績の本学の成績への振り替えが今まで以上に困難になることが予想されます。このため、平成27年度から、他大学の既修得単位は、詳しい成績をつけずに「認定」、つまり合否科目として認定されることになりました。

### 平成27年度第8回学務委員会

#### 総合入試入学者の移行先の決定について

移行手続きがルール通りに行われ、今年は文系学部102名、理系学部には1,056名、合計1,158名の移行が決定しました。また4名が単位取得しながらも希望学科に移行できないことから留年することになりました。

(鈴木 久男 理学研究院教授・総合教育部長)



# 平成27年度 全学教育部・総合教育部行事予定表

## 第1学期

月日(曜日)	行 事
4 1(水)～3(金)	新入生定期健康診断
7(火)	新入生オリエンテーション及び総合教育部ガイダンス(学部・学科等移行ガイダンス, 学部ガイダンス)
8(水)	入学式
9(木)	履修調整・登録に関するガイダンス及び教育情報システム(ELMS)利用に関するガイダンス
10(金)	第1学期授業開始日
9(木)～10(金)	日本学生支援機構・新規奨学生募集説明会
10(金)～16(木)	抽選科目の申込期間(Web入力)
20(月)	抽選科目の結果発表日及び追加申込日
24(金)	日本学生支援機構・新規奨学生申請書提出期間
21(火)～27(月)	履修届Web入力
5 18(月)	6 講時授業実施開始※下記参照
6 4(木)	開学記念行事日(休講)
4(木)～7(日)	大学祭[4(木), 5(金)は休講]
10(水)～16(火)	履修登録した科目の取消し受付(Web), 自由設計科目登録変更期間
20(土)	TOEFL-ITP試験(英語Ⅱ)
25(木)	6 講時授業実施終了※下記参照
7 30(木)	木曜日の授業終了日
31(金)	金曜日の授業終了日
8 2(日)～3(月)	オープンキャンパス
3(月)	月曜日の授業終了日
4(火)	火曜日の授業終了日
5(水)	水曜日の授業終了日
6(木)	初習外国語統一試験日(通常授業は休講)(第1学期授業終了日)
7(金)～9月25日(金)	夏季休業日
25(火)	全学教育科目成績Web上公開
25(火)～26日(水)	全学教育科目成績確認及び成績評価に関する申立て期間
(25(火)～9月25日(金))	(H26年度以前入学者・自由設計科目登録変更期間)
9 上旬～中旬	学科等分属手続: 当該学部(2年次以上)

第1回クラスアワー	4月7日(火) 新入生オリエンテーション時
第2回クラスアワー	5月上旬～6月上旬
第3回クラスアワー	9月下旬～10月中旬 (基本的に9月24日(木)午前)
第4回クラスアワー	2月初旬 (基本的に2月4日(木)午前)

## 第2学期

月日(曜日)	行 事
9 24(木)午後	学部・学科等移行ガイダンス
25(金)	学部・学科等紹介
28(月)	第2学期授業開始日
28(月)～10月2日(金)	学部・学科等移行手続き(予備志望調査)
28(月)～10月2日(金)	抽選科目の申込期間(Web入力)
10 6(火)	予備志望調査結果発表日 抽選科目の結果発表日及び追加申込日
7(水)～14(水)	履修届Web入力
15(木)	月曜日の授業を行う日 (木曜日の授業は行わない)
11 15(日)	AO入試・帰国子女入試
12 2(水)～8(火)	履修登録した科目の取消し受付(Web), 自由設計科目登録変更期間
28(月)～1月4日(月)	冬季休業日
1 5(火)	授業再開
12(火)	月曜日の授業を行う日 (火曜日の授業は行わない)
15(金)	センター試験準備(休講)
16(土)～17(日)	大学入試センター試験
27(水)	初習外国語統一試験日(通常授業は休講)
28(木)	木曜日の授業終了日
29(金)	金曜日の授業終了日
2 1(月)	月曜日の授業終了日
2(火)	火曜日の授業終了日
3(水)	水曜日の授業終了日(第2学期授業終了日)
4(木)午後	学部・学科等移行ガイダンス
5(金)	学部・学科等紹介
17(水)	全学教育科目成績Web上公開
17(水)～18(木)	全学教育科目成績確認及び成績評価に関する申立て期間
17(水)～23(火)	(H26年度以前入学者・自由設計科目登録変更期間)
25(木)～26(金)	一般入試個別学力検査等(前期日程)
29(月)	全学教育科目成績確定 第1年次進級判定 学部・学科等移行手続き
～3月18日(金)	(第1回志望調査～各学部振り分け)
3 12(土)	一般入試個別学力検査等(後期日程)

### ※6 講時(18:15-19:45) 授業実施スケジュール

月曜1 講時の授業は	5月21日(木)実施	水曜1 講時の授業は	5月18日(月)実施	木曜1 講時の授業は	5月19日(火)実施
月曜2 講時の授業は	5月28日(木)実施	水曜2 講時の授業は	5月25日(月)実施	木曜2 講時の授業は	5月26日(火)実施
月曜3 講時の授業は	6月11日(木)実施	水曜3 講時の授業は	6月8日(月)実施	木曜3 講時の授業は	6月9日(火)実施
月曜4 講時の授業は	6月18日(木)実施	水曜4 講時の授業は	6月15日(月)実施	木曜4 講時の授業は	6月16日(火)実施
月曜5 講時の授業は	6月25日(木)実施	水曜5 講時の授業は	6月22日(月)実施	木曜5 講時の授業は	6月23日(火)実施



# 平成26/25年度 (第1学期) 全学教育科目履修者数対比表

区分	授 業 科 目	26年度1学期 (履修取消後)			25年度1学期 (履修取消後)			26/25年度比較	
		クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	履修者の増減	前年比%
	一般教育演習 (フレッシュマンセミナー)	111	1,838	16.56	92	1,595	17.34	243	115.2%
	(集中・論文指導除く) 小計	37	682	18.43	28	495	17.68	187	137.8%
	(集中: フィールド体験 (通年集中除く)) 小計	(15)	(345)	23.00	(14)	(331)	23.64	14	104.2%
	(論文指導) 小計	59	1,156	19.59	50	1,100	22.00	56	105.1%
総合科目	環境と人間	15	923	61.53	18	1,099	61.06	▲176	84.0%
	健康と社会	8	1,765	220.63	8	1,731	216.38	▲34	102.0%
	人間と文化	6	331	55.17	7	451	64.43	▲120	73.4%
	人間と文化 (集中)	-	-	-	1	14	14.00	▲14	-
	特別講義	1	36	36.00	2	65	32.50	▲29	55.4%
	学問の世界 ※	(1)	(221)	(221.00)	(1)	(329)	(329.00)	▲108	67.2%
	総合科目 小計	30	3,276	109.20	36	3,360	93.33	▲84	97.5%
主題別科目	思索と言語	10	973	97.30	13	877	67.46	96	110.9%
	思索と言語 (論文指導)	6	128	21.33	3	40	13.33	88	320.0%
	歴史の視座	6	345	57.50	5	360	72.00	▲15	95.8%
	歴史の視座 (論文指導)	6	106	17.67	3	61	20.33	45	173.8%
	芸術と文学	11	980	89.09	11	934	84.91	46	104.9%
	芸術と文学 (集中)	(3)	(209)	69.67	(2)	(136)	68.00	73	153.7%
	芸術と文学 (論文指導)	3	47	15.67	4	76	19.00	▲29	61.8%
	社会の認識	21	1,631	77.67	22	1,865	84.77	▲234	87.5%
	社会の認識 (論文指導)	9	170	18.89	8	122	15.25	48	139.3%
	科学・技術の世界	17	1,673	98.41	15	1,892	126.13	▲219	88.4%
	科学・技術の世界 (論文指導)	3	72	24.00	3	46	15.33	26	156.5%
	主題別科目 小計	95	6,334	66.67	89	6,273	70.48	61	101.0%
	(集中・論文指導除く) 小計	65	5,602	86.18	66	5,928	89.82	▲326	94.5%
(集中) 小計	3	209	69.67	2	136	68.00	73	153.7%	
(論文指導) 小計	27	523	19.37	21	345	16.43	178	151.6%	
共通科目	体育学A (実技・1単位)	48	1,505	31.35	53	1,459	27.53	46	103.2%
	体育学B (講義・2単位)	1	142	142.00	1	115	115.00	27	123.5%
	情報学	18	2,677	148.72	18	2,672	148.44	5	100.2%
	統計学	11	898	81.64	11	946	86.00	▲48	94.9%
	インターンシップ	(2)	(174)	(87.00)	(2)	(142)	(71.00)	32	122.5%
	共通科目 小計	78	5,396	69.18	83	5,192	62.55	204	103.9%
外国語を除く教養科目 合計		314	16,844	53.64	300	16,420	54.73	424	102.6%
うち論文指導 (主題別・一般教育演習) 小計		86	1,679	19.52	71	1,445	20.35	234	116.2%
外国語科目	英語	137	5,348	39.04	137	5,365	39.16	▲17	99.7%
	ドイツ語	26	1,030	39.62	29	1,090	37.59	▲60	94.5%
	フランス語	12	494	41.17	12	420	35.00	74	117.6%
	ロシア語	5	172	34.40	5	163	32.60	9	105.5%
	スペイン語	7	266	38.00	6	278	46.33	▲12	95.7%
	中国語	23	673	29.26	24	636	26.50	37	105.8%
	韓国語	5	140	28.00	5	159	31.80	▲19	88.1%
	外国語科目 小計	215	8,123	37.78	218	8,111	37.21	12	100.1%
外国語演習	英語演習	102	1,680	16.47	104	1,842	17.71	▲162	91.2%
	英語演習 (集中)	(4)	(75)	(19.00)	(3)	(75)	(25.00)	0	0.0%
	ドイツ語演習	13	337	25.92	14	288	20.57	49	117.0%
	フランス語演習	14	181	12.93	13	185	14.23	▲4	97.8%
	ロシア語演習	6	104	17.33	6	73	12.17	31	142.5%
	スペイン語演習	8	188	23.50	8	187	23.38	1	100.5%
	中国語演習	15	246	16.40	18	314	17.44	▲68	78.3%
	韓国語演習	6	60	10.00	6	75	12.50	▲15	80.0%
	外国語特別演習	13	222	17.08	14	244	17.43	▲22	91.0%
	外国語演習 小計	181	3,093	17.09	186	3,208	17.25	▲115	96.4%
外国語 合計		396	11,216	28.32	404	11,319	28.02	▲103	99.1%
基礎科目	人文・社会科学の基礎	9	1,192	132.44	10	1,237	123.70	▲45	96.4%
	文系基礎科目 小計	9	1,192	132.44	10	1,237	123.70	▲45	96.4%
	線形代数学	34	1,856	54.59	33	1,815	55.00	41	102.3%
	微分積分学	34	1,926	56.65	33	1,900	57.58	26	101.4%
	数学概論	2	35	17.50	3	49	16.33	▲14	71.4%
	数学 小計	70	3,817	54.53	69	3,764	54.55	53	101.4%
	物理学・物理学 (上級)	27	1,671	61.89	27	1,731	64.11	▲60	96.5%
	化学	29	1,824	62.90	29	1,878	64.76	▲54	97.1%
	生物学	21	1,451	69.10	21	1,488	70.86	▲37	97.5%
	地球惑星科学	7	851	121.57	7	825	117.86	26	103.2%
	理科 小計	84	5,797	69.01	84	5,922	70.50	▲125	97.9%
	基礎自然科学実験	1	16	16.00	1	17	17.00	▲1	94.1%
	自然科学実験	18	1,000	55.56	18	1,005	55.83	▲5	99.5%
	実験 小計	19	1,016	53.47	19	1,022	53.79	▲6	99.4%
基礎科目 合計		182	11,822	64.96	182	11,945	65.63	▲123	99.0%
日本語・日本事情		4	31	7.75	4	44	11.00	▲13	70.5%
全学教育科目 1学期合計		896	39,913	44.55	890	39,728	44.64	185	100.5%

※ 一般教育演習 集中講義「グローバルキャリアデザイン」、「学問の世界」及び「インターンシップ」の履修者数は、履修登録を要しない特殊な科目のため「26/25年度比較」欄は、これらを除いて算出している。

## 平成26/25年度（第2学期）全学教育科目履修者数対比表

区分	授 業 科 目	26年度2学期			25年度2学期			26/25年度比較	
		クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	クラス数	履修者数	1クラスの履修者数	履修者の増減	前年比%
	一般教育演習（フレッシュマンセミナー）	52	1,045	20.10	53	1,204	22.72	▲ 159	86.8%
	（集中・論文指導除く）小計	27	488	18.07	24	520	21.67	▲ 32	93.8%
	（集中・フィールド体験）小計	5	162	32.40	5	164	32.80	▲ 2	98.8%
	（論文指導）小計	20	395	19.75	24	520	21.67	▲ 125	76.0%
総合科目	環境と人間	15	1,522	101.47	18	1,698	94.33	▲ 176	89.6%
	健康と社会	6	1,231	205.17	6	1,241	206.83	▲ 10	99.2%
	人間と文化	7	646	92.29	5	487	97.40	159	132.6%
	特別講義	1	103	103.00	1	47	47.00	56	219.1%
	総合科目 小計	29	3,502	120.76	30	3,473	115.77	29	100.8%
主題別科目	思索と言語	10	1,317	131.70	10	1,362	136.20	▲ 45	96.7%
	思索と言語（論文指導）	1	25	25.00	3	162	54.00	▲ 137	15.4%
	歴史の視座	10	1,006	100.60	10	1,171	117.10	▲ 165	85.9%
	歴史の視座（論文指導）	2	26	13.00	4	87	21.75	▲ 61	29.9%
	芸術と文学	8	1,452	181.50	5	1,062	212.40	390	136.7%
	芸術と文学（論文指導）	1	32	32.00	2	40	20.00	▲ 8	80.0%
	社会の認識	12	1,079	89.92	11	1,162	105.64	▲ 83	92.9%
	社会の認識（論文指導）	7	95	13.57	10	169	16.90	▲ 74	56.2%
	科学・技術の世界	14	1,470	105.00	14	1,432	102.29	38	102.7%
	科学・技術の世界（論文指導）	1	21	0.00	0	0	0.00	21	0.0%
主題別科目 小計	66	6,523	98.83	69	6,647	96.33	▲ 124	98.1%	
	（集中・論文指導除く）小計	54	6,324	117.11	50	6,189	123.78	135	102.2%
	（論文指導）小計	11	178	16.18	19	458	24.11	▲ 280	38.9%
外国語科目	英語	150	4,545	30.30	154	4,790	31.10	▲ 245	94.9%
	ドイツ語	26	1,001	38.50	29	1,089	37.55	▲ 88	91.9%
	フランス語	12	507	42.25	12	425	35.42	82	119.3%
	ロシア語	5	160	32.00	5	162	32.40	▲ 2	98.8%
	スペイン語	6	275	45.83	6	262	43.67	13	105.0%
	中国語	22	666	30.27	23	626	27.22	40	106.4%
	韓国語	5	129	25.80	5	149	29.80	▲ 20	86.6%
	外国語科目 小計	226	7,283	32.23	234	7,503	32.06	▲ 220	97.1%
外国語演習	英語演習	65	1,028	15.82	48	987	20.56	41	104.2%
	ドイツ語演習	15	318	21.20	15	356	23.73	▲ 38	89.3%
	フランス語演習	10	217	21.70	11	198	18.00	19	109.6%
	ロシア語演習	7	99	14.14	7	122	17.43	▲ 23	81.1%
	スペイン語演習	8	165	20.63	7	156	22.29	9	105.8%
	中国語演習	18	355	19.72	17	385	22.65	▲ 30	92.2%
	韓国語演習	6	90	15.00	7	104	14.86	▲ 14	86.5%
	外国語特別演習	14	246	17.57	14	232	16.57	14	106.0%
外国語演習 小計	143	2,518	17.61	126	2,540	20.16	▲ 22	99.1%	
	外国語 合計	369	9,801	26.56	360	10,043	27.90	▲ 242	97.6%
共通科目	体育学A（実技・1単位）	46	1,340	29.13	48	1,297	27.02	43	103.3%
	体育学B（講義・2単位）	2	388	194.00	1	370	370.00	18	104.9%
	情報学	11	584	53.09	10	589	58.90	▲ 5	99.2%
	統計学	9	810	90.00	9	802	89.11	8	101.0%
	共通科目 小計	68	3,122	45.91	68	3,058	44.97	64	102.1%
	外国語を除く教養科目 合計	215	14,192	66.01	220	14,382	65.37	▲ 190	98.7%
	うち論文指導（主題別・一般教育演習）小計	31	573	18.48	43	978	22.74	▲ 405	58.6%
基礎科目	人文・社会科学の基礎	6	1,022	170.33	5	988	197.60	34	103.4%
	文系基礎科目 小計	6	1,022	170.33	5	988	197.60	34	103.4%
	線形代数学	28	1,218	43.50	27	1,249	46.26	▲ 31	97.5%
	微分積分学	28	1,502	53.64	27	1,494	55.33	8	100.5%
	数学概論	1	9	9.00	1	13	13.00	▲ 4	69.2%
	数学 小計	57	2,729	47.88	55	2,756	50.11	▲ 27	99.0%
	物理学・物理学（上級）	27	1,562	57.85	27	1,589	58.85	▲ 27	98.3%
	化学	27	1,821	67.44	27	1,823	67.52	▲ 2	99.9%
	生物学	21	1,331	63.38	21	1,342	63.90	▲ 11	99.2%
	地球惑星科学	5	1,248	249.60	5	1,245	249.00	3	100.2%
	理科 小計	80	5,962	74.53	80	5,999	74.99	▲ 37	99.4%
	心理学実験	4	66	16.50	4	85	21.25	▲ 19	77.6%
	自然科学実験（2単位）	18	1,038	57.67	18	1,026	57.00	12	101.2%
実験 小計	22	1,104	50.18	22	1,111	50.50	▲ 7	99.4%	
	基礎科目 合計	165	10,817	65.56	162	10,854	67.00	▲ 37	99.7%
	日本語・日本事情	1	18	18.00	1	23	23.00	▲ 5	78.3%
全学教育科目 2学期合計		750	34,828	46.44	743	35,302	47.51	▲ 474	98.7%
全学教育科目 1学期合計		896	39,234	43.79	892	35,673	39.99	3,561	110.0%
全学教育科目 1・2学期合計		1,646	74,062	45.00	1,635	70,975	43.41	3,087	104.3%

※教養教育連携事業（受信科目）については除外

## 教育支援 EDUCATIONAL SUPPORT

### 平成26年度「北海道大学TF研修会」を開催 —143名が参加—

表記研修会が、2月18日（水）に機構大講堂等で、3月4日（水）には水産学部講義棟第一講義室を会場として、本学で初めて開催しました。修士課程2年次及び博士課程の学生それぞれ、135名、8名が修了しました。これは、平成27年度からTF制度が本学において導入されることに伴い、採用候補者である大学院生を対象として実施したものです。

TF（ティーチング・フェロー）制度は、大学院博士課程の大学院生を対象に、大学院教育の一環として、教員と分担しながら学士課程の授業を担う機会を与えることで、教育能力を高め将来指導的役割を果たす人材を養成することを目的とした制度です。学士課程教育をより一層充実させることも目的としています。TFに採用される学生は定型的な授業において、教員の管理下において講義や採点、授業の企画ができるようになるため、本研修会などのTF研修の修了を義務づけ、事前に理解を深めてもらうこととしています。

札幌キャンパスでの午前の部では、新田孝彦高等教育推進機構長の挨拶に続き、「TFとしての心構えと教育倫理綱領の理解」、「シラバスの構成と意味」、

「評価の機能と種類」、「クラス・マネージメント」といった、TFに関する具体的な内容の講演が行われました。函館キャンパスでは安井 肇水産科学研究院長が挨拶を行い、ショートレクチャーは細川、鈴木が担当しました。

午後の部では、参加者は10名程度ずつのグループに分かれ、アクティブ・ラーニング実習を受講しました。各グループは、アイスブレイキングを行った後、「教育者または学習者としてのTFに求められるものは何か？」をテーマにグループ討議を行い、最後にその成果を発表しました。どの参加者も積極的に研修に取り組んでおり、TFに高い意欲を持って臨んでいる様子が感じられました。事後アンケートにおける評価も高く、研修会の効果が裏付けられました。

TFは本研修と、7月と12月に実施される授業参観、および2学期終了後開催される反省会に出席することが要請されています。TF研修会は年2回開催され、次回は8～9月に開催の予定です。

（細川 敏幸）



午前の部の様子



実習に取り組む参加者

表1 札幌キャンパスでのプログラム

<午前の部>：全体会（高等教育推進機構 大講堂）	<午後の部>：
9：15 受付	アクティブ・ラーニング実習（小教室に分かれる）
9：30 挨拶：高等教育推進機構長（新田孝彦）	E208, E214, E308, E311
9：35 講演：TFとしての心構えと教育倫理綱領の理解 （細川敏幸）	担当者 E208：細川敏幸，飯田直弘
10：05 講演：シラバスの構成と意味（山田邦雅）	E214：山田邦雅，木村 純
10：35 休憩	E308：鈴木 誠，亀野 淳
10：50 講演：評価の機能と種類（鈴木 誠）	E311：池田文人，三上直之
11：20 講演：クラス・マネジメント（細川敏幸）	13：30 グループ学習入門
<昼休み> 12：00～13：30	14：00 グループ討論
	15：00 発表
	16：00 終了



1. 講義担当コマ数（専任（外国人教師を除く）担当分を開講責任コマ数（配当教員1人につき、責任部局は5～6コマ、準責任部局は6コマ）に計上）

授業科目	部局	文			教			法			経			理			医			歯			薬			工			農			獣			水		
		専	外	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非					
教養科目	主題別科目	思索と言語	17																																		
		〃（論文指導）	8																																		
		歴史の視座	13					2		1																											
		〃（論文指導）	4				2		1																												
		芸術と文学	13		7																																
		〃（論文指導）	4																																		
		社会の認識	11				2		5	1	9																										
		〃（論文指導）	7						3		3																										
		科学・技術の世界	3									19	1													6											
		〃（論文指導）	2									1														1											
共通	体育学B				3																																
	統計学							12	4															3													
	主題別への振替(外国語演習・基礎科目)	23				2		4		4		10																									
基礎科目	人文・社会科学の基礎	5			2		4	2																													
	線形代数・微分積分・数学概論									90	33																										
	物理学（上級）・物理学									32		1											6		4								1				
	化学									14												4		11		3											
	生物学									24												1		2		5		1									
	地球惑星科学									11																											
	日本語・日本事情																																				
	計	110	0	7	11	0	19	1	31	4	201	34	1	0	0	0	0	5	0	29	0	12	0	1	0	1	0	1									

2. 外国語授業及び実験等担当コマ数（専任（外国人教師を除く）担当分を開講責任コマ数（配当教員1人につき、責任部局は8～10コマ、準責任部局は10コマ）に計上）

授業科目	部局	文			教			法			経			理			医			歯			薬			工			農			獣			水		
		専	外	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非					
共通	体育学A				74	21																															
	情報学I・II																							15	50												
	インターンシップ																																				
外国語	英語																																				
	ドイツ語																																				
	フランス語																																				
	ロシア語																																				
	スペイン語																																				
	中国語																																				
	韓国語																																				
外国語演習	英語演習																																				
	ドイツ語演習		4																																		
	フランス語演習																																				
	ロシア語演習																																				
	スペイン語演習																																				
	中国語演習																																				
	韓国語演習																																				
外国語特別演習																																					
基礎科目	心理学実験	8																																			
	基礎自然科学実験									6																											
	自然科学実験（物理学）									52	12												12		4												
	自然科学実験（化学）									22	16											4															
	自然科学実験（生物学）									46	10																										
自然科学実験（地球惑星科学）									18																												
計	8	4	0	74	21	0	0	0	0	144	38	0	0	0	0	0	0	4	0	27	50	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
開講コマ数(講義換算(×5/8))			5	46.25		0	0	0	90		0	0	0	0	0	0	0	2.4		16.875		2.4		0													

(準)薬学部、農学部は講義換算(×6/10)

3. 責任部局の開講責任コマ数（配当教員1人あたりの負担コマ数（講義換算）が、責任部局では5コマ以上、準責任部局では6コマ以上必要）

部局	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣	水
配当教員数(H25.4.1予定)	24	12	4	6	66			(準)1	6	(準)2		
開講コマ数(講義換算(×5/8))	120	60.25	21	31	364.00			6.0	30.0	12.0		
配当教員1人当たり負担コマ数	5.00	5.02	5.25	5.17	5.52			6.00	5.00	6.00		

4. 全学支援開講コマ数（上記1及び2表で3表に算入しないコマ数）

部局	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣	水
開講コマ数						1		3	26	4	1	

5. 全学協力（総合科目及び一般教育演習（フレッシュマンセミナー））担当コマ数（責任部局の開講責任コマ数には計上しない。）

授業科目	部局	文		教		法		経		理		医		歯		薬		工		農		獣		水		専	
		専	外	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専	非	専		
総合科目 教養科目	環境と人間									3		1						4		3		3		4			
	健康と社会				3							3		4		1									1		
	人間と文化	1					1		1																		
	特別講義																										
	学問の世界																										
	一般教育演習(フレッシュマンセミナー)	3		2						7									12		9		2		4		
	〃 (論文指導)	3			2		4		3		5		10		4		4		12		1		1		1		
	一般教育演習への振替(外国語演習)	2		1			1		1		3		6		2				6		1				1		
	外国語演習(全学協力的)																										
計	9	0	3	5	0	6	0	5	0	18	0	20	0	10	0	5	0	34	0	14	0	6	0	11	0		

6. 全部局の担当状況

部局	文	教	法	経	理	医	歯	薬	工	農	獣	水	外
専任教員数(25.51助教以上専+外)	105	40	64	49	223	209	79	58	383	122	46	81	
開講コマ数合計(専+外)	126	82	25	32	342	21	10	14	90	30	7	12	
教員一人あたりの開講コマ数(専+外)	1.20	2.05	0.39	0.65	1.53	0.10	0.13	0.24	0.23	0.25	0.15	0.15	
開講コマ数合計(専+外+非)	141	111	26	40	435	21	10	14	140	30	7	12	
非常勤担当コマ数	15	29	1	8	93	0	0	0	50	0	0	0	
非常勤依存率(非/全体)	10.64%	26.13%	3.85%	20.00%	21.38%	0.00%	0.00%	0.00%	35.71%	0.00%	0.00%	0.00%	

全学教育科目は、旧教養教官団を継承した7つの責任部局と、医学部保健学科の新設を機に設けられた2つの準責任部局を中心に、広く全学に支援を得て実施されている。

表1、表2は旧教養部から引き継いだ定員（配当教員）に基づき、責任・準責任部局が開講責任を負う科目のコマ数である。

責任部局については配当教員1名につき、講義（表1）5～6コマ、実験・実技・外国語科目（表2）8～10コマの開講責任を、準責任部局については配当教員1名につき、講義（表3）

表3は責任部局の配当教員数と講義換算した開講コマ数を示すことにより、開講負担状況を示したものである。

表4は表1・2で示されるコマ数の内、開講責任のない部局が提供しているコマを示す。これにより全学支援の状況を示す。

表5は全学の協力により実施される総合科目・一般教育演習（フレッシュマンセミナー）の担当コマ数である。総合科目は各部局1コマ以上、「一般教育演習（フレッシュマンセミナー）」

表6は全部局の担当状況をまとめた表である。（ここでは、部局経費負担による非常勤講師のコマ数は「開講コマ数合計（専+外）」欄には含めず、「非常勤担当コマ数」欄に含めている。

本表は、外国語教育センター及び国際本部提供の新渡戸カレッジ関連科目を除いた授業担当状況である。

（参考）年度別非常勤コマ数（全学教育経費分）（平成6-27年度） ※部局経費負担分を除く

年度	非常勤	一般教育演習	合計	増減
6	690		690	
7	848		848	158
8	752		752	△ 96
9	651		651	△ 101
10	656	4	660	9
11	659	5	664	4
12	656	9	665	1
13	675	10	685	20
14	679	7	686	1
15	692	15	707	21
16	694	16	710	3
17	655	14	669	△ 41
18	571	7	578	△ 91
19	488	7	495	△ 83
20	397	6	403	△ 92
21	347	6	353	△ 50
22	341	8	349	△ 4
23	343	5	348	△ 1
24	343	5	348	0
25	349	4	353	5
26	341	3	344	△ 4

(部局経費負担)

	合計
6.5	501.5
40	443.0
51	404.0
52	401.0
49	397.0
71	419.0
52	405.0
65	409.0

文4、理1.5、その他（戦略本部）1  
 文4、理17、薬1、外18  
 文3、経2、理20（創成2含む）、薬1、外25（北京オフィス所長就任に伴う）  
 文4、経2、理23（創成2含む）、薬1、外22（北京オフィス所長就任に伴う）  
 文5、経2、理19、外23（北京オフィス所長就任に伴う）総長協議分4コマ  
 文4、教育4、経2、理21、外40（北京オフィス所長就任に伴う）総長協議  
 文4、教育4、経2、理21、外21（北京オフィス所長就任に伴う）総長協議  
 文5、教育12、経4、理20、外24（北京オフィス所長就任に伴う）総長協議

## 教育評価 EDUCATIONAL EVALUATION

### 「IRネットワーク報告書2014」を発行

本学では、平成24年9月に採択された文部科学省大学間連携共同教育推進事業「教学評価体制（IRネットワーク）学士教育課程の質保証」により、特に教学に関するIRを推進しています。本事業では、毎年連携する8大学で共通のアンケート調査を行っており、この度2014年度の調査結果を報告書(図1)としてまとめ、公表しましたので、内容を簡単に紹介します。

本報告書は、事業の基盤となり、連携する全8大学が参加した「学生調査報告」、卒業生を対象に3大学で実施した「卒業生調査報告」、分析結果の活用事例として、事業代表校である本学と8大学全体の昨年度までの学生調査結果を比較した「2011-2013年の学生調査データを用いた比較分析報告」の3部構成となっています。

学生調査は、本事業における3年目（3回目）の調査になります。各大学において、1年生と上級生を対象に、2014年8月から12月にかけて実施され、データ件数は、両者とも1万件を超えており、3年分を合わせると、1年生で計27,000件余り、上級生で計29,000件余りのデータが蓄積されました。大きな経年変化はないものの、上級生における読書時間の減少、グローバル化への対応力の低さ、女性の優位性を示す結果となっています。

卒業生調査は、本学と関西学院大学ならびに大阪府立大学の3校で実施しました。卒業後5年（2009年）、10年（2004年）、15年（1999年）の卒業生を対象としています（1校は5年後のみを対象）。就職氷河期などの社会情勢や近年の大学の授業内容の変化などが表れる結果となっており、例えば、在学中に身に付いた能力として、「プレゼンテーション能力」、「ディスカッション能力」、「リーダーシップ能力」の項目は、1999年の卒業生が低く、2004年以降の卒業生と大きな差がみられました。

比較分析報告は、2011年度から2013年度までの学

生調査基礎集計結果に加えて、大まかな傾向をわかりやすく示すために、一定基準の下、各質問項目の回答を数値に換算した「平均値」を掲載しました。この平均値を比較し、本学の長所短所を箇条書きで列挙しました。本学学生は自習時間が長いなど、比較的積極的に学習活動に臨んでいる様子がうかがえる一方で、「リーダーシップの能力」、「人間関係を構築する能力」、「他の人と協力して物事を遂行する能力」などの社会的な汎用能力に関する数値の低さが明らかになりました。

本報告書は、ウェブサイト (<http://8gp.high.hokudai.ac.jp/>) 上でご覧いただけます。

(宮本 淳, 徳井美智代)



(図1)

# 大学間連携共同教育推進事業の外部評価委員会を開催

文部科学省大学間連携共同教育推進事業「教学評価体制（IRネットワーク）学士教育課程の質保証」は、本学を代表校する8大学（北海道大学、お茶の水女子大学、琉球大学、大阪府立大学、玉川大学、同志社大学、関西学院大学、甲南大学）の連携事業として平成24年9月に採択され、今年度4年目を迎えます。昨年8月には事業の中間報告としてシンポジウムを開催し、全国から155名の参加者を集めました。また、2月には有識者5名（独立行政法人大学評価・学位授与機構研究開発部 浅野 茂、名城大学人間学部 池田輝政、北海道大学 名誉教授 小笠原正明、筑波大学大学研究センター 金子元久、東京大学大学総合教育研究センター 小林雅之〔五十音順、敬称略〕）の方々に委員とする外部評価委員会を開催し、本事業の評価をいただきました。ここでは、外部評価の概要を紹介します。

外部評価委員会では、本事業で推進する、①教学評価体制の構築、モデル化について、②8大学IR学生調査ネットワークの構築について、③IRシステムの構築、④IRネットワークを活用した英語学習評価、⑤IRネットワークを活用した卒業生調査、⑥教学評価人材育成のためのワークショップ、⑦英語学習調査の項目設定、⑧高等教育機関における教学評価コミュニティの育成、の8項目について評価をいただきました。

講評では、「事業は着実に発展しており評価できる。個々の項目についても同様であり、今後が楽しみである。」との高評価をいただきました。そのうえで、次のご意見をいただきました。

## 1. 大学全体の課題とIR

大学の中でこのような事業がどのように生かされているのかを示して欲しい。それぞれの大学の事情により難しい面もあるが、情報が使われないのであればどこに問題があるのかについて、この事業を社会実験と捉え公開して欲しい。

## 2. 学習行動のデータの収集と分析

8大学では比較分析の範囲が限られているので、幅を広げた分析を進めて欲しい。【この点については、大学IRコンソーシアム（39大学が参加）の活動を紹介しました。】また、学習状況と他の調査の連結については、様々な可能性があるので戦略的に分析を進めて欲しい。特に、成績と授業の在り方、学生の資質の関係や入学試験の在り方と学習行動の関係に注目してもらいたい。

## 3. 個々の大学内での体制

分析から得られるメッセージをわかりやすく学内に伝えていくことが大きな課題である。報告書では伝わりにくい明確なメッセージを発信する方法を考えて欲しい。また、そのような体制を各大学および大学IRコンソーシアムにおいて維持発展させるよう期待している。

ご意見をいただき、本事業が日本の多くの大学の見本として貢献しなければならないことをあらためて実感しているところです。やりがいととも責任も感じておりますが、早速、ご意見を今後の計画に反映させるよう準備を進めています。

（宮本 淳、徳井美智代）



## 地域社会連携 Community Relations

### 平成26年度 高大連携授業聴講型公開講座 修了式を開催

平成27年2月16日(月)17:00~18:00に情報教育館4階共用多目的教室(1)において平成26年度高大連携授業聴講型公開講座の修了式を開催しました。修了式は今回が初めての取り組みで、本年度講座に参加している6つの高校から合計21名の生徒が出席しました。

修了式開催の目的の1つは、授業を聴講した生徒の生の声を聞くことにより取り組みの改善に役立てることでした。そのため、受講証明書授与後に皆で席を囲んで座談会を行うことにより、全体として過度にフォーマルにならず、教員と生徒、生徒同士が気軽に話ができる雰囲気作りに努めました。修了式自体新しい取り組みなのですが、ある授業では担当教員が手作りの修了証を発行してくださるなど、これまでにないフィードバックもあり、受け取った生徒は大変喜んでいました。

高等教育推進機構からは、木村特任教授、三上准教授、飯田准教授(報告者)に加え、学務部学務企

画課教育支援担当の藤井係長と児玉主任も参加し、座談会にもご協力いただいたおかげで、生徒と活発にコミュニケーションをとることができました。座談会では、たとえば、授業で他の学生や教員と交流する機会がもっとほしかったという意見や毎回の授業が楽しみで、積極的に参加することができたという感想などを聞くことができました。

後日、ある高校の窓口教員から、修了式に参加した生徒がとても楽しかったと言っていたのでぜひ来年度も開催してほしいとの要望をいただきました。来年度以降も続けるのかどうかは改めて検討するとして、最も重要な点は、生徒と教員(運営側の教員も含む)、生徒相互でコミュニケーションをとる機会を増やすことにより、生徒が講座に参加することに意義を感じ、積極的に自らの進路・キャリアについて考えることができるよう支援することだと考えています。

(飯田 直弘)



## 学生支援 STUDENT SUPPORT

### 「全学インターンシップ参加希望者説明会」を開催

平成27年度の全学インターンシップがスタートしました。以下の日時において、全学インターンシップ参加希望学生を対象とした説明会を開催し、計282名の参加がありました。

第1回 4月20日(月) 18:30~20:00

第2回 4月22日(水) 16:30~18:00

※第1回と第2回は同じ内容

説明会においては、昨年度に全学インターンシップに参加した学生からそれぞれ体験談を発表していただき、今年度の参加希望者に対する参加意欲の向上を図りました。その後、全学インターンシップの担当者である、高等教育推進機構高等教育研究部亀野准教授及びキャリアセンター川上インターンシッ

プマネージャーから制度の説明や具体的な手続きの説明を行いました。

その後、5~6月にかけて、参加希望学生からの申込受付、参加希望学生と企業等のマッチングを行います。インターンシップ先が決まった学生には7月に講義形式の事前研修を実施し(函館キャンパスでは別途実施予定)、その後、1名10分あたりの個人面談も実施しています。これらの事前研修、個人面談はインターンシップ実習の効果がより高まるよう実施しているものであり、これらを経て、参加学生はそれぞれの企業・団体で夏期休暇にインターンシップ実習を行う予定です。

(亀野 淳)

### 2014年度スポーツトレーニングセンター利用状況

2014年度の利用者数集計作業が終わり、年間合計で約43,600人の利用があったことが明らかになりました(表1)。年間40,000人を超える利用は前身の体育指導センター時代を含めて北海道大学スポーツトレーニングセンター開設以来初の快挙となります。

2009年は16,198人の利用に留まっていますが、2010年は24,695人と1988年以来22年ぶりに年間利用者が2万人を超えました。以降も利用者はさらに増加し、2011年度は初めて延べ30,000人を超え、そして2012年度は33,000人を超える利用者がいました

が、2013年度は3年振りに3万人を割り込む前年比70%の利用者に留まり、2010年の水準よりも下がってしまいました。これは、耐震補強工事のために10月1日より2月7日まで閉館していたことが影響していたと考えられます。2014年度は上半期でも前年比118%の約21,500人の利用があり、下半期は前々年比約120%の利用がありました(一昨年比130%)。

平日は朝7時からの早朝開場を実施しております。授業時間前にも積極的にご利用下さい。

表1 2014年度におけるスポーツトレーニングセンター利用者数

期 間	内 訳	2014年度	2013年度	2014年度/2013年度比
小 計	サークル・クラブ団体	30,278	15,312	+ 14,966 (198%)
	個人利用学生	12,474	8,215	+ 4,259 (152%)
	教職員	836	326	+ 510 (256%)
合 計	-	43,588	23,853	+ 19,735 (183%)

## 第1回北海道大学スポーツトレーニングセンター シンポジウムを開催

2月14日に北海道大学学術交流会館大講堂において、第1回北海道大学スポーツトレーニングセンターシンポジウムが、「スポーツ選手に筋力トレーニングは必要なのか? ~リハビリテーションから競技力向上まで~」をテーマとして行われました。

「ウェイト・トレーニング」, 「スタビライゼーション」, 「ファンクショナル・トレーニング」, 「スロー・トレーニング」など、最近筋力トレーニングの方法に関する情報があふれています。また、「筋肉をつけたら硬くなる」, 「〇〇選手は筋トレしなくても強いらしい」, 「成長期に筋トレすると背が伸びない」など、筋力トレーニングをしなくてもよいとする噂も耳にすることから、各分野の専門家をお呼びして筋力トレーニングの必要性や方法、また経験や科学的根拠を徹底的に話し合いができる機会としました。北海道を拠点にしているスポーツ選手が少しでも成績を上げられるように、医療から競技まで各界の有識者からお話をいただく機会を設けました。

初めに北海道大学保健科学研究院准教授の寒川美奈先生より「リハビリテーションにおける筋力トレーニング」について、その後国際武道大学准教授（北海道大学高等教育推進機構客員准教授）の笠原政志先生から「リハビリと競技を繋げる筋力トレーニング」について、さらに関西医療大学講師の辻和

哉先生より「合理的な動きにつながる筋力トレーニング」と、リハビリから競技力向上までの実践的内容について、科学的な背景を交えながら講演いただきました。さらに、首都大学東京准教授の山内潤一郎先生に「筋力トレーニングによるパワー獲得の科学的根拠」をテーマに筋力・筋パワートレーニング研究の最先端について分かりやすく、かつ笑いも交えた内容でお話いただきました。その後、4名の先生方同士での総合討議、フロアの質問も受け付け、開始から4時間を超える長丁場のシンポジウムを無事終えることができました。

総計で220名を超える参加者があり、大学生や現場の指導者やトレーナーに交じって高校生の参加もありました。フロアからは、北海道大学の公式庭球部に所属する選手からや、高校生のハンドボール選手からも質問がありました。会が終わってからも講師の先生方へ直接質問に行く参加者が多く、次の日以降も北海道大学スポーツトレーニングセンターフェイスブックサイトへ多くの感想が寄せられ、非常な盛り上がりを感じられました。また、当日の様子は2月15日の北海道新聞朝刊にも取り上げられ、スポーツに関するテーマの注目度の高さがうかがえました。

(瀧澤 一騎)

## アンチドーピング講習会が行われました

1月17日に北海道大学スポーツトレーニングセンターにおいて、アンチドーピング講習会が行われました。これは、体育会陸上競技部の依頼によって行われたものです。

講師には薬剤師でスポーツファーマシストの資格を持つ日本ボブスレー・リュージュ協会医科学委員の岡田政彦氏（北海道大学薬学部2002年卒）をお呼びして、「なぜドーピングが問題になるか」という倫理的な問題から始まり、実際に禁止されている薬物の種類や検査対象になった選手が行わなければならない手順について説明していただきました。また、試合時に薬を飲まなくてはならない状況になった場合の対処法や、アレルギー等疾患で常用している薬

がある場合の申請方法など、理念的なことから実践的内容まで資料を使った丁寧な講演を聞くことができました。

最近、国際レベルの大会でも日本選手が「うっかりドーピング」によって失格になったとの報道もありました。競技レベルの高低に関わらず、クリーンなアスリートとして試合・大会に挑めるような教育が望まれています。また、ドーピングコントロール教育はスポーツの枠にとどまらない倫理的な教育の一環としても行われています。今回の取り組みがその先駆けとなることを期待しています。

(瀧澤 一騎)



# 科学技術コミュニケーション CoSTEP

## 修了式シンポジウム「なつかしい未来へ～ 福島の再生と科学技術コミュニケーション～」を開催

### 2014年度を締めくくるテーマは“福島の再生”

2015年3月7日、北海道大学学術交流会館小講堂にて、科学技術コミュニケーター養成プログラム (CoSTEP) の修了式が開かれ、同時にシンポジウム「なつかしい未来へ～福島の再生と科学技術コミュニケーション」が開催されました。

福島第一原子力発電所の事故から、はや4年目の春を迎えました。しかし今なお12万人以上の避難者(2014年12月時)が故郷を追われ、目に見えない放射能が多くの人々を苦しめています。福島の未来のために、科学技術コミュニケーションは、そして私たちには何ができるのでしょうか。改めてこの難しい問題を考えるために、シンポジウムが開かれました。

パネリストは、久保田直さん(映画「家路」監督)、信濃卓郎さん((独)農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター 農業放射線研究センター長)、本田紀生さん(NPO「元気になろう福島」)の3人。司会進行はCoSTEPの早岡英介がつかめました。

### 4つの関連イベント

今回は、シンポジウムも含め「なつかしい未来へ」という共通タイトルを冠した、4回連続のイベントでした。それぞれのイベント概要および参加者数と満足度に関するアンケート結果を表1に示します(それぞれのイベントの参加者は一部重複しています)。



写真1 シンポジウムの様子

表1 4つの関連イベントの概要

	イベント名	ゲスト	開催日	参加者数	満足度(アンケート)
1)	サイエンス・カフェ札幌「なつかしい未来へ～映像で見る福島の今」	北大工学研究院量子理工学部門・藤吉亮子准教授	2015.2/15(日)	70数名	「とても満足(27%)」「満足(58%)」「どちらともいえない(10%)」「不満(0%)」「とても不満(5%)」
2)	映画「家路」上映会	久保田直氏(映画「家路」監督)	2015.3/6(金)	73名	「満足(84%)」「やや満足(16%)」「不満(0%)」「とても不満(0%)」
3)	シンポジウム「なつかしい未来へ～福島の再生と科学技術コミュニケーション」	久保田直氏(同上) 信濃卓郎・農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 農業放射線研究センター長 本田紀生氏・NPO法人「元気になろう福島」	2015.3/7(土)	70～80名程度	「よかった(72%)」「ややよかった(18%)」「ややよくなかった(0%)」「よくなかった(0%)」(無回答含む)
4)	ワークショップ「なつかしい未来へ～考えよう 福島のこれから」	信濃卓郎氏(同上) 本田紀生氏(同上)	2015.3/8(日)	22名	「よかった(64%)」「ややよかった(16%)」「ややよくなかった(0%)」「よくなかった(0%)」(無回答含む)

## リスクコミュニケーション実習でシンポジウム含め4つのイベントを企画運営

今年度はCoSTEPでリスクコミュニケーション実習という選択実習を設け、意欲のある受講生たちが本科と選科からあわせて8名集まり、上記4つのイベントを企画しました。修了式・シンポジウムの企画・運営を受講生が担ったのは初めてです。

一連の企画のために、2014年11月9～11日に3名

の受講生が現地調査に赴き、福島第一原発周辺の空間放射線量の計測および関係者へのヒアリングと撮影を実施しました。これら一連のイベントおよびCoSTEPリスクコミュニケーション実習は、科学研究費助成事業（基盤C）「映像メディアを介した新たな科学技術対話手法の構築」（代表：早岡英介）により実施されました。



写真2 CoSTEPリスクコミュニケーション実習の授業風景

## シンポジウムの内容

シンポジウムは、リスクコミュニケーション実習を受講する農学院M1（当時）の田中泰生さんが代表して挨拶し、池田貴子さん（獣医学研究科修了）、渡邊綱介さん（生命科学学院M1・当時）による映像レポートをまじえて進みました。

まずは大熊町の仮設住宅で町民の皆さんに聞いた「仮設住宅での過酷な暮らし」を映像で紹介しました。強制避難を強いられた人には精神的賠償として月あたり1人10万円の補償が出ています。しかし、こうしたお金が地域の分断を生み、故郷に住めないことで家族がバラバラになってしまった世帯も珍しくありません。「働かなくても補償金がもらえていいね」といった心ない言葉を周りの人から投げかけられることもあったそうです。避難者の皆さんが抱える苦しみ的一端は、仮設住宅を訪ねることで初めて、実感をもって伝わってきました。

久保田さんは、映画の取材でいわき市最大規模の仮設住宅を訪れた時、昼も夜も全く人が外にいない風景をととても不思議に感じたそうです。同じ建物が並ぶ中で追い詰められていく人の気持ちを考えた時に、主人公（松山ケンイチ）の母（田中裕子さん）の認知症が進み、自宅が分からなくなって仮設住宅でさまようシーンを思いつきました。もしかしたら惚けてしまったほうがいっそ楽なのかもしれない、

そんな気持ちでこのシーンを撮ったといいます。

また「自分の子供が友達と築いてきた関係がばらばらになってしまった」と涙を流す母親の映像からは、原子力という巨大科学技術が生み出すリスクの罪深さが伝わってきました。本田さんは「これらは全て大人の責任であり、罪のない子供にしわ寄せがいつている」と指摘しました。

それから川内村の農家、秋元美誉（よしとか）さんは「1センチの土ができるのに100年かかる。田んぼの表土を5センチ剥げというのは、500年の先祖からの汗と苦勞を持っていくという意味だ」と訴えました。

信濃さんは一見線量が低い地域であっても、汚染の状況はまばらであり、営農再開にあたりきめ細かい除染対策は欠かせないことを強調しました。5年目を迎え農家の皆さんの疲弊が深刻化している今、農業復興は時間との勝負になってきています。

一方で、人類史的視点で見れば、「農業は何万年もやってきている。運良く5センチ“たった500年分”を剥ぐだけですんだともいえる」と信濃さんは言います。これから500年かけてでも福島農業を再建していくんだという長期的な視野も必要だと教えて下さいました。

## 福島の再生へ向けて

科学技術コミュニケーターや札幌市民に何ができるのか信濃さんに聞いたところ、「まずはやっぱり福島に来て、福島がどうなのか見てほしい」と話しました。中間貯蔵施設の建設や汚染水の問題ばかりが全国的に報じられる中、本田さんも「現場を見て肌で感じることで、言葉にならない部分がよく伝わる」といいます。

また信濃さんは、「食べ物の産地を不安に思ってしまう気持ち」と「福島の農業復興」と、どちらも尊重しないといけないと言います。このギャップを埋めるために、科学技術コミュニケーターと協働していきたい、そのためのバックアップは惜しまないと呼びかけました。

シンポジウムの翌日には、ワークショップ「なつかしい未来へ～考えよう福島のこれから」も学术交流会館で開催され、22名が参加し福島の農業と放射能の問題について語り合いました。札幌の市民、そして科学技術コミュニケーターが、福島の復興のために何ができるのか、多くの気づきがあった有意義なイベントとなりました。改めてご来場いただいた皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。

(早岡 英介)

## 日誌 EVENTS, January-March

### 1月

- 13日 (行事) 海外15大学によるワークショップ
- 14日 (行事) 海外15大学による留学のための大学説明会
- 14日 (会議) 第6回全学教育専門委員会
- 17日~18日 (試験)  
大学入試センター試験
- 21日 (会議) 第4回総合教育教務・学生専門委員会
- 21日 (会議) 第1回大学IRコンソーシアム運営委員会
- 22日 (会議) 第3回総合教育移行専門委員会
- 22日 (行事) 第5回新渡戸カレッジフェロー講演会
- 27日 (会議: 持ち回り)  
第5回高等教育推進機構学務委員会
- 28日 (会議) 第9回教育改革室会議

### 2月

- 2日 (行事) 新渡戸カレッジグループのつどい
- 3日 (会議) 第7回高等教育推進機構運営委員会
- 4日 (会議) 第4回新渡戸カレッジ運営会議教務専門委員会
- 4日 (会議) 第1回大学IRコンソーシアム運営委員会 (TV) (1/21の続き)
- 4日~5日 (行事)  
学部移行ガイダンス, 学部・学科等紹介
- 8日~10日 (行事)  
障害学生支援スキルアップ研修
- 9日 (会議) 大学間連携共同教育推進事業 外部評価委員会 (甲南大学ネットワークキャンパス東京)
- 9日 (会議) 大学間連携共同教育推進事業 第2回教学評価体制開発評価委員会 (甲南大学ネットワークキャンパス東京)
- 9日 (会議) 大学間連携共同教育推進事業 第2回IRシステム開発委員会 (甲南大

学ネットワークキャンパス東京)

- 10日 (会議) 入学者選抜委員会
- 10日 (行事) AO入試 (センター試験を課す) 合格者発表
- 12日 (会議) 第5回新渡戸スクール設置準備委員会
- 14日 (会議) 新渡戸カレッジ2014年度振り返り会
- 16日 (行事) 高大連携授業聴講型公開講座 修了式
- 16日 (会議) 第4回大学院共通教育専門委員会
- 17日 (会議) 第7回全学教育専門委員会
- 18日 (研修会) 第1回北海道大学TF研修会 (札幌キャンパス)
- 18日 (談話) 第1回遠友学舎炉辺談話
- 19日 (会議) 第1回公開講座 (全学企画) 実施部会
- 19日 (シンポジウム)  
新渡戸スクール国際シンポジウム
- 20日 (会議) 第3回新渡戸カレッジ運営会議
- 23日 (会議: 持ち回り)  
第6回高等教育推進機構学務委員会
- 24日 (会議) 第2回教務情報システム専門委員会
- 25日~26日 (試験)  
一般入試 (前期日程)
- 26日 (会議) 第10回教育改革室会議
- 27日 (会議) 第7回高等教育推進機構学務委員会
- 27日 (会議) 第4回総合教育移行専門委員会
- 27日 (会議) 第7回高等教育推進機構学務委員会

### 3月

- 3日 (会議) 第2回公開講座 (全学企画) 実施部会
- 4日~11日 (会議: 持ち回り)  
第6回総合教育教務・学生専門委員会
- 4日 (研修会) 第1回北海道大学TF研修会 (函館キャンパス)
- 4日 (談話) 第2回遠友学舎炉辺談話
- 5日 (会議) 入学者選抜委員会
- 7日 (行事) 一般入試 (前期日程) 合格者発表,



	私費外国人留学生入試合格者発表	19日 (会議)	第8回高等教育推進機構学務委員会
9日 (会議)	第6回学生委員会	19日 (会議)	第5回総合教育移行専門委員会
10日 (会議)	クラス担任幹事会	20日 (会議)	入学者選抜委員会
11日 (会議)	第3回高等教育研究専門委員会	20日 (行事)	一般入試 (後期日程) 合格者発表
11日 (談話)	第3回遠友学舎炉辺談話	20日 (会議)	クラス担任等連絡会
12日 (試験)	一般入試 (後期日程)	24日 (会議)	第8回全学教育専門委員会
16日~18日 (会議: 持ち回り)		25日 (行事)	学位記授与式 (札幌キャンパス)
	第7回総合教育教務・学生専門委員会	26日 (行事)	学位記授与式 (函館キャンパス)
	会	30日 (会議)	第11回教育改革室会議
17日 (会議)	第8回高等教育推進機構運営委員会	30日 (会議)	第2回大学IRコンソーシアム運営委員会 (TV)
18日 (談話)	第4回遠友学舎炉辺談話		
19日 (会議)	第8回高等教育推進機構学務委員会		

## 行事予定 SCHEDULE, April-June

### ◆4月

- 1 (水) ~ 3 (金)  
新入生定期健康診断
- 7 (火) 新入生オリエンテーション及び総合教育部ガイダンス (学部・学科等移行ガイダンス, 学部ガイダンス)
- 8 (水) 入学式
- 9 (木) 履修調整・登録に関するガイダンス及び教育情報システム (ELMS) 利用に関するガイダンス
- 10 (金) 第1学期授業開始日
- 10 (金) ~ 16 (木)  
抽選科目の申込期間 (Web入力)
- 20 (月) 抽選科目の結果発表日及び追加申込日
- 21 (火) ~ 27 (月)  
履修届Web入力

### ◆5月

- 18 (月) 6講時授業実施開始

### ◆6月

- 4 (木) 開学記念行事日 (休講)
- 4 (木) ~ 7 (日)  
大学祭 [4 (木), 5 (金) は休講]
- 10 (水) ~ 16 (火)  
履修登録した科目の取消し受付 (Web),

- 自由設計科目登録変更期間
- 20 (土) TOEFL-ITP試験 (英語II)
- 25 (木) 6講時授業実施終了

### ◆7月

- 30 (木) 木曜日の授業終了日
- 31 (金) 金曜日の授業終了日

### ◆8月

- 2 (日) ~ 3 (月)  
オープンキャンパス
- 3 (月) 月曜日の授業終了日
- 4 (火) 火曜日の授業終了日
- 5 (水) 水曜日の授業終了日
- 6 (木) 初習外国語統一試験日 (通常授業は休講)  
(第1学期授業終了日)
- 7 (金) ~ 9月25日 (金)  
夏季休業日
- 25 (火) 全学教育科目成績Web上公開
- 25 (火) ~ 26 (水)  
全学教育科目成績確認及び成績評価に関する申立て期間
- 25 (火) ~ 9月25日 (金)  
H26年度以前入学者・自由設計科目登録変更期間

**ニュースレター 2015, No.102 目次**

<p>〈巻頭言〉 大学院特別教育プログラム 「新渡戸スクール」について 山中 康裕 ..... 1</p> <p>アカデミック・サポートセンター2014年度活動報告, およびラーニングサポート室の活動について ... 3</p> <p>個々の顔が見えるサポートとして —北大ピア・サポート 2014年度の活動— ..... 5</p> <p>学務委員会報告 ..... 6</p> <p>平成27年度 全学教育部・総合教育部行事予定表 ..... 8</p> <p>平成26/25年度 (第1学期) 全学教育科目履修者数 対比表 ..... 9</p> <p>平成26/25年度 (第2学期) 全学教育科目履修者数 対比表 ..... 10</p> <p>平成26年度「北海道大学TF研修会」を開催 —143名が参加— ..... 11</p> <p>「IRネットワーク報告書2014」を発行 ..... 13</p>	<p>大学間連携共同教育推進事業の外部評価委員会を 開催 ..... 14</p> <p>平成26年度 高大連携授業聴講型公開講座 修了式を開催 ..... 15</p> <p>「全学インターンシップ参加希望者説明会」を 開催 ..... 16</p> <p>2014年度スポーツトレーニングセンター 利用状況 ..... 16</p> <p>第1回北海道大学スポーツトレーニングセンター シンポジウムを開催 ..... 17</p> <p>アンチドーピング講習会が行われました ..... 18</p> <p>修了式シンポジウム「なつかしい未来へ～福島の再生 と科学技術コミュニケーション～」を開催 ..... 19</p> <p>日誌 ..... 22</p> <p>行事予定 ..... 23</p> <p>目次・編集後記 ..... 24</p>
---	---

**編集後記**

今号からニュースレターのデザインを変更しました。いかがでしょうか。新年度がスタートし、講義棟を歩き来する新入生を見ると新鮮な気持ちになります。自分が大学生の頃は授業が退屈で仕方ありませんでしたが、いざ教壇に立つと、学生の意欲を引き出すことの難しさが身に染みてわかります。最近では学生による授業評価が多くの大学で実施されています。昨年度の結果を改めて確認して、今期の授業改善に役立っているところです。

(NIIDA)

**ニュースレター**

(北海道大学高等教育推進機構広報誌)  
通算 **第102号**

発行日： 2015年4月30日  
 発行元： 北海道大学高等教育推進機構  
 〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目  
 電話 (011)706-7520, FAX (011)706-7854  
 編集委員：◎細川敏幸・木村純・鈴木誠・瀧澤一騎・飯田直弘  
 ご意見、お問い合わせは◎印の編集委員まで  
 電話 (011)706-7514, FAX (011)706-7521  
 インターネットホームページ：  
<http://educate.academic.hokudai.ac.jp/center/index.html>